

# 戦中戦後の紙芝居

平成5年2月23日～

平成5年4月25日

徳島県立文書館

# 紙芝居の歴史

紙芝居は、街頭での駄菓子売りの景品として昭和4・5年頃に成立した大衆芸である。昭和10年頃と、戦後の20年代の2度にわたって興隆期を迎え、最盛期には全国で5万人の業者が活躍していた。しかしテレビ劇画の影響を受け、昭和30年頃を最後に街頭から紙芝居は姿を消してしまった。その後は、主に幼児教育の教材として、現在も幼稚園・保育所などで多様に活用されている。また現在の幼稚園など活用されている「パネルシアター」「エプロンシアター」「ペープサート」などにも紙芝居の影響が見られる。

## 【前史】

紙芝居の先行芸能として「写（うつ）し絵」と「立ち絵」がある。

「写（うつ）し絵」は、日本で開発された世界最初の極彩色の映像アニメーションといわれている。和紙（美濃紙）を張り合せた横6尺（180cm）・縦3尺（90cm）のスクリーンの裏側から数台の木製の投映機（フロ）で、人物や景色を写し出し、鳴り物や口上に合わせて絵を動かす仕掛けである。

写し絵の原版は、背景のように動かないものと、人物の一部が動くものと2種類の仕組みがあった。1803（享和3）年頃に始ったとされている。写し絵は関西では「錦影絵」と呼ばれていた。

「立ち絵」は、写し絵が明るい場所で出来ないのを、明るい所でも見せれるようにしたものである。写し絵の背景（ほとんどが黒いバックと入口・門などわずかの大道具）に当たる絵を固定し、串をつけたウチワ状の紙の表裏両面に登場人物の絵を描き、くるっと回すと同じ人物の別の動作が出てくる仕組みであった。

「紙人形を操る芝居」の意味で「紙芝居」とも呼ばれましたが、後の紙芝居と区別するために「立ち絵」といわれるようになった。立ち絵は明治20年代に成立し、大正時代から昭和初年まで興業された。

## 【紙芝居の成立】

立ち絵が、小屋掛け興業で、道具も重く、操作も複雑で多人数で操作するのに比べ、一人で操作出来る一枚絵の「紙芝居」が昭和初年に成立した。

関東大震災後、「立ち絵」興業師の下にいた人たちの中から独立して、紙芝

居を見せ、入場料の代わり（興業許可を持っていないので入場料は取れない）に「飴」などの駄菓子を売る人々が出てきたのが最初である。

芸能面から言えば、立ち絵が歌舞伎調の旧式なものであるのに対し、新興の「紙芝居」は、『黄金バット』などのSF作品、『だっちゃんと坊や』などのマンガ類、幼児だけに答えさせるクイズ、民話など多様で、一回の興業で種類の違う数本の紙芝居を見せるため、それぞれの子供たちの好みに合わせる事が出来た。また、固定した枠内でしか活躍しない「立ち絵」に対し、紙芝居には、絵をクローズアップさせたり、幾枚かの絵でまとまった一つのイメージを描く映画の手法（モンタージュ論）を導入することが出来、「立ち絵」に飽き足りない昭和の子供たちの心をとらえることが出来た。

街頭での紙芝居は、すべて手書きの絵にニスを塗ったもので、東京で制作された一組の絵が、全国を順々に回っていたという。絵を描いたのは、ほとんど無名で駆け出しの若い画家や画学生であったが、紙芝居の傑作とされる『黄金バット』は鈴木一郎原作で、作画は加太こうじ（最初の頃は画学生の永松武雄）であった。

### 【紙芝居の盛衰】

紙芝居には2度の興隆期がある。最初は昭和10年前後で、経済不況による多くの失業者が流入したためである。第2期は戦後の混乱期であり、戦地からの引揚者や失業者の増加と、世相不安のなかでも子供たちの娯楽を求める気持ちが「紙芝居」という街頭娯楽に結実したためといえよう。

昭和30年代に入って、テレビの普及と出版の発達で、子供たちの関心を街頭の娯楽「紙芝居」から、茶の間のテレビマンガや、劇画雑誌へと移していった。その結果昭和34年頃に街頭の紙芝居は、徳島の町々から消えていった。

### 【紙芝居の定着と発展】

街頭から姿を消した紙芝居は、戦時中から幼児教育の場での教材として大量に出版されるようになった。また、各種の団体の宣伝資料としても普及していった。現在、お話・民話・生活しつけなど各種の紙芝居が幼稚園・保育所などで盛んに活用されている。

また、テレビの劇画を見慣れた子供たちをも引きつける教材として工夫された「パネルシアター」「エプロンシアター」「ペープサート」なども紙芝居の影響を受けているといえるだろう。

## 展示資料

種類	題名	作製者	作製年	資料名 (所有)
紙芝居	「母のおもかげ」	日本教育紙芝居協会	昭和18年	西崎家文書
〃	「新版イソップ物語」	株式会社日展	昭和21年	西崎家文書
〃	「親心子心」	日本教育紙芝居協会	昭和16年	西崎家文書
〃	「ラッパ貯金」	日本教育紙芝居協会	昭和16年	西崎家文書
〃	「真鯉緋鯉」	日本教育紙芝居協会	昭和18年	西崎家文書
〃	「画僧月僊」	日本教育紙芝居協会	昭和21年	西崎家文書
〃	「渡り鳥」	通信省	昭和22年	西崎家文書
〃	「天保の夜明け」	徳島県教育委員会	年記なし	同和教育振興課
〃	「みんなであそぼ」	徳島県教育委員会	年記なし	同和教育振興課
〃	「みんなにここにこ」	徳島県教育委員会	年記なし	同和教育振興課
〃	「なかまなののに」	徳島県教育委員会	年記なし	同和教育振興課
〃	「みんなの音楽会」	徳島県教育委員会	年記なし	同和教育振興課
〃	「ふるさと」	徳島県教育委員会	年記なし	同和教育振興課
〃	「若者とともに」	徳島県教育委員会	年記なし	同和教育振興課
〃	「飛び越せネットを」	徳島県教育委員会	年記なし	同和教育振興課
〃	「幸子旅立ち」	徳島県教育委員会	年記なし	同和教育振興課
〃	「はなさかじじい」	教育画劇	昭和46年	わかくさ幼稚園
〃	「せなかまるたろうくん」	童心社	昭和51年	わかくさ幼稚園
〃	「へんしんランドG0 G0」	消費者教育支援センター	平成3年	わかくさ幼稚園
	パネルシアター「なかよしふうせん」	用具一式		わかくさ幼稚園
	エプロンシアター	2セット		わかくさ幼稚園
	ペープサート	4本		わかくさ幼稚園
	写し絵原版・ガラス版絵	(16枚)		遠藤家資料
	写し絵ホルダー			遠藤家資料
	雑誌・絵本	(13冊)		横井家文書
	巡回文庫箱			真島家資料
	巡回文庫箱閲覧簿			真島家資料